

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)戸田計画新築工事	階数	地上6F地下0F
建設地	埼玉県戸田市	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、準防火地域	平均居住人員	178 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年9月 予定	評価の実施日	2024年4月30日
敷地面積	1,953 m ²	作成者	株式会社東映建工一級建築士事務所山崎伸一
建築面積	886 m ²	確認日	2024年5月8日
延床面積	4,702 m ²	確認者	株式会社東映建工一級建築士事務所山崎伸一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100%
②建築物の取組み 97%
③上記+②以外の 97%
④上記+ 97%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2

音環境	3.4
温熱環境	2.7
光・視環境	3.3
空気質環境	3.8

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.7

機能性	2.6
耐用性	2.7
対応性	2.6

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.0

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.2

建物外皮の	3.0
自然エネ	2.0
設備システ	3.6
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1

水資源	3.0
非再生材料の	3.2
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0

地球温暖化	3.1
地域環境	2.9
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合	特になし。	特になし。
Q1 室内環境	開口部は、遮音性能が高いものを採用し、さらに採光が十分確保できる大きさとし、快適な住環境となるように配慮した。	敷地内には可能な限り緑化を設けたほか、敷地入口付近に樹木を計画することで、周囲に溶け込む建物をなるべく配慮した。
LR1 エネルギー	建物全体の断熱性能を高めるとともに、LED照明を採用し、エネルギー消費の低減に努めている。	運用に伴って発生するCO ₂ の発生量を低く抑えることで、地球温暖化に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	外壁はコンクリート打ち放しのうえ吹付タイル仕上げとし、さらに遮音置き床材を採用することで、将来の更新及び修繕の計画が容易となるよう配慮した。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)戸田計画新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.0
Q1 室内環境							0.40		-	3.2
1 音環境						4.0	0.15	3.3	1.00	3.4
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音						5.0	0.50	3.7	0.50	
1 開口部遮音性能		遮音性能T-2				5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		界壁遮音性能TDL=57				-	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	2.0	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
2 温熱環境						1.3	0.35	3.0	1.00	2.7
2.1 室温制御						1.7	0.50	3.0	0.50	
1 室温						1.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能						3.0	0.38	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式						1.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						3.1	0.25	3.4	1.00	3.3
3.1 昼光利用						3.6	0.30	3.4	0.30	
1 昼光率		エントランスホール2.44%専用部7.36%				4.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御		庇/カーテン				3.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気環境						3.6	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		内装仕上材(下地材、天井裏等、床下含む)はF☆☆☆☆の資材を使				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						3.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		換気面積1/6以上確保				-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.7
1 機能性						3.1	0.40	2.6	1.00	2.6
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観						-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理						3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		内装材は防汚性の高いものを採用				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.7	0.30	-	-	2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						2.9	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						1.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		3.0	0.30	2.6	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり		-	-	2.2	0.50	
1 階高のゆとり		-	-	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		-	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.0	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.94	3.6	0.50	-	3.6
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水		3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.2	0.60	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮		2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		4.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

W4 13月

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)戸田計画新築工事	BEE	1.0	BEEランク	★★★
------	--------------	-----	-----	--------	-----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.1	+	3.0	=	6.1	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.1
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.1
運用に伴って発生するCO2の発生量を低く抑えることで、地球温暖化に配慮している。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
敷地内には可能な限り緑化を設けたほか、敷地入口付近に樹木を計画することで、周囲に溶け込む建物をなるように配慮した。			

: 入力欄